

伝統の火を 絶やささない

和蝋燭（ろうそく）は、竹串に和紙と燈心草を巻きつけ真綿で留めてつくった芯を使います。ハゼノキの実から採られたハゼ蠟（木蠟）を主な原料とし、約四〇度の蠟を何度も手塗りし、乾かす工程を繰り返してパウムクーヘンのような年輪状に太らせていく「気掛け製法」でつくられています。仕上げに約五〇度の蠟で塗られた蝋燭は上品なウグイス色で暖かな春を感じさせてくれます。

現在、和蝋燭製造を手がけるお店は全国的にも少なく十五軒程度。西日本では、内子の「大森和蝋燭屋」一軒のみとなりました。ハゼの実を原料とする和蝋燭はススが少なく、風が吹かなければ蠟が垂れることもないため神社や舞台演出などにも使われます。



木蠟や生糸などの生産で繁栄していた大正五（一九一六）年に大正天皇即位を記念して、芸術・芸能を愛好する地元住民が建てた芝居小屋「内子座」。昨年七月に国の重要文化財に指定された内子座は今年二月二十一日に創建百周年を迎えます。文楽など舞台演出にも使われている和蝋燭は、江戸時代からつくられ続けて約二百年。内子に繁栄をもたらした製蠟業の一端を今に伝える貴重な存在として、伝統の火を絶やさず継がれていきます。

大森和蝋燭屋

電話〇八九三・四三・〇三八五

内子座

電話〇八九三・四四・二八四〇

えひめまるごと
地産ding

vol.7 内子町

愛媛のクリエイターたちが
各地域の魅力を新聞広告で伝えます！



企画／愛媛新聞社営業開発部
制作協力／クリエイターズクラブ愛媛

*写真は内子座の舞台演出などで使用される和蝋燭[100匁(もんめ)]の実寸です。